



CLINICAL
BIOBANK
STUDY GROUP

ワリニカルバイオバンク研究会

第3回 クリニカル バイオバンク研究会 シンポジウム



プログラム・抄録集

会期 2017年7月7日(金) ~ 7月9日(日)

会場 千葉大学医学部記念講堂・同窓会館

〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学亥鼻キャンパス内

大会長 松下 一之

千葉大学医学部附属病院 検査部部長・遺伝子診療部診療教授

thermoscientific

Sample integrity You can bank on

サンプル管理のソリューション

Thermo Scientific™ 2Dコード付
チューブはサンプル保存用です

チューブ底に刻印された、耐冷性・耐薬品性・
耐摩擦性に優れた2Dコードは超低温環境下で
保管されたサンプルを確実にトラッキングでき
ます。



サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社

お問い合わせ  TEL 0120-753-670
info.LPG.jp@thermofisher.com www.thermoscientific.jp

ThermoFisher
SCIENTIFIC

第3回 クリニカル バイオバンク研究会 シンポジウム

プログラム・抄録集

会期 2017年7月7日(金) ～ 7月9日(日)

会場 千葉大学医学部記念講堂・同窓会館
〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学亥鼻キャンパス内

大会長 松下 一之
千葉大学医学部附属病院 検査部部長・遺伝子診療部診療教授

ご 挨 拶

このたびは千葉大学亥鼻キャンパスにおいて開催される第3回クリニカルバイオバンク研究会にご参加いただきありがとうございます。千葉大学病院を代表してご挨拶を申し上げます。

千葉大学病院は本年3月に医療法の規定にもとづいた臨床研究中核病院の承認を受け、大学病院の重要な使命である臨床研究の推進に本格的に舵をとりはじめ、またバイオバンクやゲノム医療の推進のための具体策の検討を開始しています。このような分野の遂行には多くの関係者の理解と協力、情報の共有が必要であり、本研究会がご参加の皆様の活発な議論や情報交換、懇親の場になることを祈念しております。

本研究会に関わる研究分野では、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針の改訂、臨床研究法の成立、改正個人情報保護法の施行など、状況が目まぐるしく変化しています。このような中で全ての関係者が、倫理や法律に即して社会に役立つ生体試料の利活用法を考え、それらを広く発信することが重要ではないでしょうか。

本研究会では以上の内容に関するテーマについて事務局を中心に企画しました。御発表くださる先生方にはこの場をお借りしてお礼を申し上げます。限られた時間ではございますが、ナショナルバンク、アカデミア、関連企業などが情報交換を行いながら、活発なディスカッションの場となれば幸いです。本研究会がこの分野の進展に役立つことを確信しています。

平成 29 年 6 月

千葉大学病院長・千葉大学副学長

山本 修一

大会長 挨拶

第3回クリニカルバイオバンク研究会にお集まりいただいた皆様、ありがとうございます。本年（2017年）5月30日に改正個人情報保護法が施行され、保存された生体資料（バイオバンク）や個人情報のとりあつかい、企業連携や医療ビッグデータの活用などが大きく変化しています。さらに同法では個人識別符号、要配慮個人情報、機微情報、匿名加工情報、非識別加工情報などの新しい考え方が登場し、医療関係者や研究者のみならず、企業側にも当該分野の正しい理解が求められるようになっていきます。本研究会は、臨床検体を用いた研究をより系統的に整理して、臨床的に還元できる病態解析、ゲノムコホート、疾患コホート、バイオマーカー探索、企業サイドの利活用など「臨床検体を社会に役立てるかたちで還元すること」を目標にしています。今回はオープニングセッションとして「バイオバンクに何をもとめるか?」、5つのシンポジウムでは「倫理・法律（改正個人情報保護法）とゲノム解析」「保存臨床検体の品質保証・精度管理・標準化と解析・診断システムの構築」「クリニカルシークエンスの実装」「日本のバイオバンクのこれから」「バイオバンクの人材育成」を企画しました。それぞれの分野で本邦を代表する方々にお集まりいただきます。薬師寺道代参議院議員にはゲノム医療を含む本分野の制度化の必要性についてお考えをご披露いただく予定です。お蔭様で多数の企業展示ブースに御参加いただき、ナショナルバンクを含む国内有数のバイオバンクからのポスターセッションも企画しました。ナショナルバンク、アカデミア、関連企業などが情報交換を行いながら、検体のアクセス方法や利活用などについて face-to-face で忌憚のない活発なディスカッションの場となれば幸いです。本研究会がこの分野の進展に少しでも役立つことを期待しています。事務局一同精一杯努めますので、不慣れな大会運営で至らぬ点も多いと存じますがご容赦いただけますと幸いです。

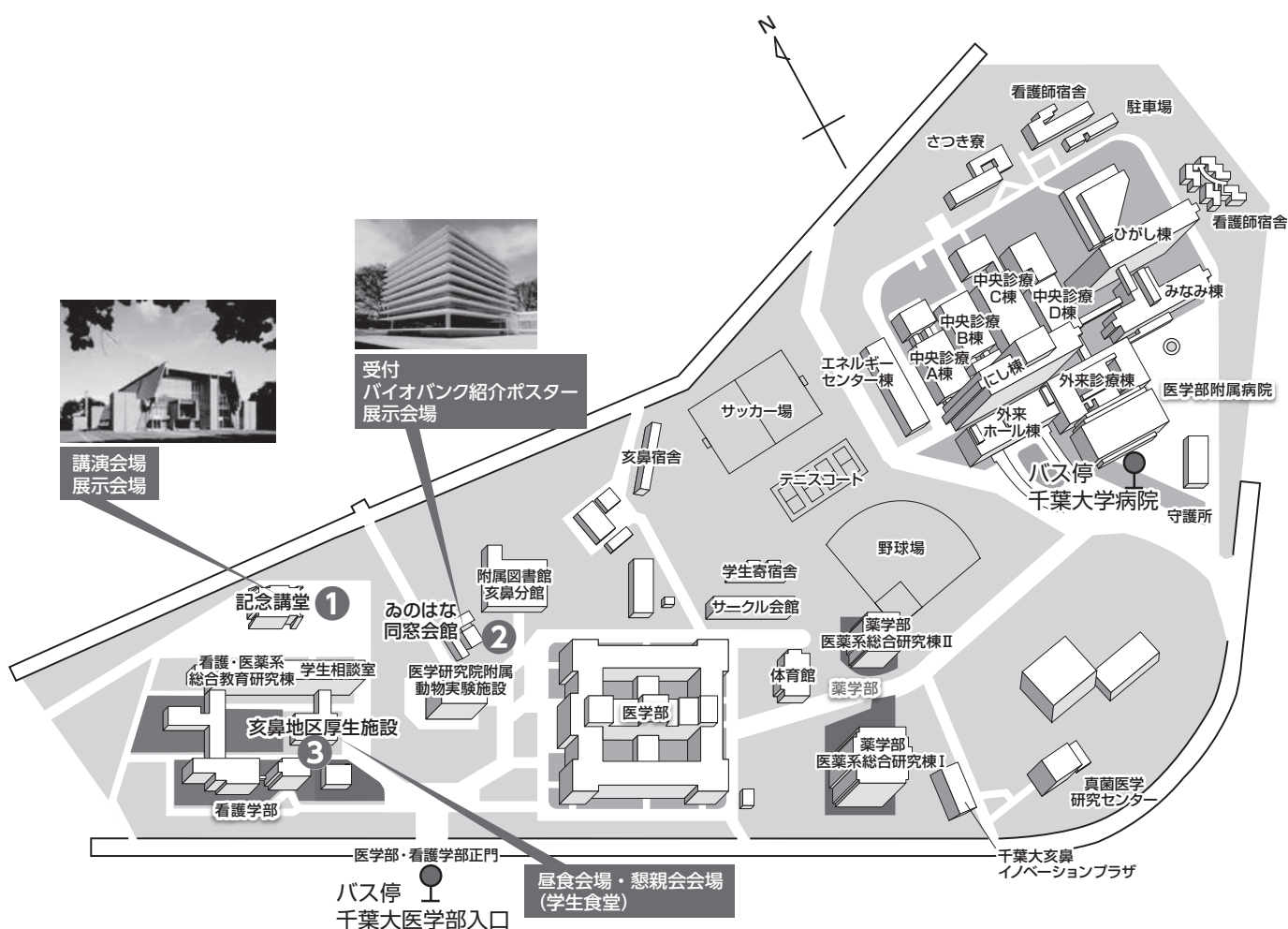
平成 29 年 6 月

千葉大学医学部附属病院 検査部・遺伝子診療部

松下一之

千葉大学医学部キャンパスマップ

- ① 記念講堂 : 講演会場・展示会場
- ② ゐのはな同窓会館: 受付・バイオバンク紹介ポスター・展示会場
- ③ 亥鼻地区厚生施設: 昼食会場・懇親会会場 (学生食堂)



交通案内

JR千葉駅東口正面7番のバス乗り場から「千葉大学病院」行きまたは「南矢作」行きバスに乗り、「千葉大医学部入口」で下車。約15分、料金220円。

バス停のご案内

- 会場へは「千葉大医学部入口」をご利用ください。
- 「千葉大学病院」とお間違えのないよう、ご注意ください。

参加者へのご案内

1. 会期及び会場

会期：2017年7月7日（金）～7月9日（日）
会場：千葉大学医学部記念講堂・同窓会館
〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1丁目8-1

2. 参加受付

○事前参加登録者の方

受付でご氏名を確認した後、参加証とプログラム抄録集をお渡しいたします。

○当日受付の方

参加費をお支払いいただいた後、参加証とプログラム抄録集をお渡しいたします。
クレジットカードはご利用できません。お支払いは現金でお願いいたします。

1) 受付時間

7月7日(金)14:00～17:00 7月8日(土)8:00～17:00 7月9日(日)8:30～11:00

2) 場所

ゐのはな同窓会館（講演会場とは別の建物となります。ご注意ください）

3) シンポジウム参加費 当日：8,000円 事前：7,000円

懇親会参加費 5,000円（当日・事前共通）

3. 懇親会

日時：7月8日(土) 18:40～20:00

会場：千葉大学看護学部 学生食堂（講演会場の向かいの建物となります）

4. 座長・演者の方へ

1) 発表時間

特別講演1：発表・質疑合わせて45分、質疑は座長一任

特別講演2：発表・質疑合わせて30分、質疑は座長一任

教育講演：発表・質疑合わせて45分、質疑は座長一任

オープニングセッション、シンポジウム1～5：各演者の方に個別にご案内の通りです

2) その他

座長・演者の方は、該当セッション開始10分前までに会場内の「次座長・次演者席」にご着席ください。

5. PC発表について

1) ご発表にあたり

- ・発表は、Microsoft PowerPointを使用したPC発表（1面投映）となります。
※35mmスライド、OHP、ビデオテープ等、PC以外での発表はできません。
- ・プロジェクターの画面解像度はXGA（1024×768）となります。
- ・スライド枚数に制限はありませんが、発表時間厳守にてお願いいたします。
- ・音声の使用はできません。

2) ご発表データ・機材について

①受付方法

- ・セッション開始の30分前までにPC受付にてデータの試写と受付をお済ませください。
※PC受付は講演会場内左前方に設置しております。ご注意ください。

- ・データは、USBメモリもしくはCD-Rにてご持参ください。

②本研究会シンポジウムで使用できるデータ・機材

- ・会場には、Windows版MicrosoftPowerPoint 2007～2016をインストールしたPCを設置いたします。
- ・Macintoshで作成したPowerPointデータは、Windows 環境で試写を行い、文字ズレ等の確認を行ってからご持参ください)
- ・動画を使用される場合、Macintoshをご利用される場合は、PC本体をご持参ください。

③PCをご持参いただく場合

- ・必ずPC受付にて試写を行ってください。
※PC受付は講演会場内左前方に設置しております。ご注意ください。
- ・会場で使用する映像ケーブルは、MiniD-sub15Pin (下図参照) です。この出力端子と接続できるコネクターとACケーブルをご持参ください。



会場に用意される
VGA ケーブル (見本)



ケーブル側



パソコン側

6. 企業展示について

千葉大学医学部記念講堂ホワイエおよび同窓会館にて行います。

展示時間： 7月7日 (金) 17:00～18:00

7月8日 (土) 9:00～18:30

7月9日 (日) 9:00～13:00

7. ランチについて

昼食時間帯にランチをお配りいたします。参加証についている引換券をスタッフに提示し、ランチをお受け取り下さい。

配布期間：2017年7月8日(土) 11:45～12:30

配布場所：千葉大学看護学部 学生食堂（講演会場の向かいの建物となります）

8. その他

- 1) 会期中は全会場を禁煙といたします。
- 2) 会長の許可のない掲示・展示・印刷物の配布、会場内の撮影・録音は固くお断りいたします。
- 3) 千葉大学敷地内への車両の入場は制限されておりますので、お越しの際は公共の交通機関をご利用ください。

9. バイオバンクツアーについて

千葉大学バイオバンクの見学ツアーを行います。大会当日に受付にて申し込みを承ります。(2部制・定員60名)

※定員に達した時点で締め切りとなります。ご了承ください。

10. 当研究会シンポジウムについての問い合わせ先

千葉大学医学部附属病院 検査部・遺伝子診療部

〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1丁目8-1

TEL: 043-222-7171(代表) 内線6220(山下) 内線6203(斉藤)

E-mail: cbs2017@aeplan.co.jp

日程表

第1日目 7月7日(金)			第2日目 7月8日(土)			第3日目 7月9日(日)		
	講演会場	受付 ポスター展示		講演会場	受付 ポスター展示		講演会場	受付 ポスター展示
	千葉大学医学部 記念講堂	みのはな同窓会館		千葉大学医学部 記念講堂	みのはな同窓会館		千葉大学医学部 記念講堂	みのはな同窓会館
8:00			8:00		8:00-17:00 受付	8:00		
9:00			9:00	8:50-9:00 開会式式辞、大会長挨拶		9:00	9:00-10:45 シンポジウム4 日本のバイオバンクのこれから	8:30-11:00 受付
10:00			10:00	9:00-11:00 シンポジウム1 倫理・法律(改正個人情報保護法) とゲノム解析 座長：黒田 知宏、吉田 雅幸 増井 徹、堤 正好 玉腰 暁子、古庄 知己		10:00	座長：森田 瑞樹 野田 浩絵、田中 康博 池田 仁子、萩島 創一	
11:00			11:00	11:00-11:45 特別講演1 座長：小杉 真司 加藤 規弘		11:00	11:00-12:45 シンポジウム5 バイオバンクの人材育成	
12:00			12:00	11:45-12:30 ランチ、展示ブース見学		12:00	座長：西原 広史、奥野 恭史 松原 岳大、柳田 絵美衣 鎌田 真由美、岡村 容伸	
13:00			13:00	12:30-14:30 シンポジウム2 保存臨床検体の品質保証・精度管 理・解析・診断システムの構築 座長：松下一之、中谷 中 末岡 榮三朗、土田 祥夫 宮地 勇人、井ノ上 逸朗		13:00	12:45-13:00 次期会長 挨拶	
14:00			14:00	14:30-15:15 教育講演 座長：小原 収 西尾 和人		14:00	千葉大学バイオバンクツアー (希望者・事前申込制)	
15:00	14:55-15:00 オープニングリマークス	14:00-17:00 受付	15:00	15:15-16:00 ポスターセッション/展示ブース 見学		15:00		
16:00	15:00-17:30 オープニングセッション バイオバンクに何を求めるか? 座長：松原 久裕、岡野 和広 吉田 輝彦、内山 浩之 西原 広史、赤塚 浩之 鈴木 隆弘		16:00	16:00-16:30 特別講演2 座長：野村 文夫 薬師寺 みちよ		16:00		
17:00			17:00	16:30-18:30 シンポジウム3 クリニカルシークエンスの 社会実装 座長：武藤 学、土原 一哉 森光 敬子、河野 隆志 武藤 学、池田 貞勝		17:00		
18:00			18:00			18:00		
19:00			19:00	18:40-20:00 懇親会 千葉大学看護学部 学生食堂		19:00		
20:00			20:00			20:00		

プログラム

7月7日(金)

14:55-15:00

オープニングリマークス

松原 久裕（千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科）

15:00-17:30

オープニングセッション：バイオバンクに何を求めるか？

座長 松原 久裕（千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科）

岡野 和広（株式会社キアゲン クリニカルシークエンスビジネス開発マネージャーアドバンスト
ジェノミクスマーケティング）

OS-1 バイオバンクに何を求めるか：がんゲノム医療実装の視点から

吉田 輝彦

国立がん研究センター研究所 基盤的臨床開発研究コアセンター

OS-2 バイオバンク利用した体外診断用医薬品開発の新たな可能性

内山 浩之

日水製薬株式会社

OS-3 オンデマンド型バンキングがもたらす、新たな創薬研究支援について

西原 広史

北海道がんセンター がんゲノム医療センター長/慶應大学病院 客員教授

OS-4 バイオバンクに対する製薬業界の要望と期待

赤塚 浩之

日本製薬工業協会 研究開発委員会 専門副委員長

OS-5 ゲノム医療研究を推進・支援するAMEDの取り組みについて

鈴木 隆弘

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 基盤研究事業部 バイオバンク課

7月8日(土)

8:50-9:00

開会式式辞

中山 俊憲（千葉大学大学院医学研究院長）

大会長挨拶

松下 一之（千葉大学医学部附属病院 検査部・遺伝子診療部）

9:00-11:00

シンポジウム1：倫理・法律（改正個人情報保護法）とゲノム解析

座長 黒田 知宏（京都大学医学部附属病院医療情報企画部）
吉田 雅幸（東京医科歯科大学先進倫理医科学開発分野）

1-1 増井 徹

慶應義塾大学システム医療研究開発センター

1-2 クリニカルバイオバンクを取り巻く現状について

堤 正好

株式会社エスアールエル

1-3 臨床検体の利活用に際して必要な倫理的配慮

玉腰 暁子

北海道大学大学院医学研究院

1-4 遺伝性・先天性疾患のクリニカルシーケンス実現に向けて ～信州大学医学部附属病院遺伝子医療研究センターの取り組み～

古庄 知己

信州大学医学部附属病院遺伝子医療研究センター

11:00-11:45

特別講演 1

座長 小杉 眞司（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 医療倫理学・遺伝医療学（遺伝カウンセリングコース）京都大学医学部附属病院遺伝子診療部 京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院 医の倫理委員会 委員長）

臨床ゲノム情報統合データベース整備事業が目指すもの：ゲノム医療を支える
統合データベースの構築

加藤 規弘

国立国際医療研究センター メディカルゲノムセンター

12:30-14:30

シンポジウム2：保存臨床検体の品質保証・精度管理・標準化と解析・診断システムの構築

座長 松下 一之（千葉大学医学部附属病院 検査部/遺伝子診療部）

中谷 中（三重大学医学部附属病院中央検査部・オーダーメイド医療部・遺伝子診療科）

2-1 多施設連携を目指したバイオバンクに求められるもの

ー保存検体の質保障、検体と医療情報の連結

末岡 榮三朗^{1,2}、佐藤 明美¹、中村 秀明²

¹佐賀大学医学部臨床検査医学講座、²佐賀大学医学部附属病院輸血部

2-2 Assessment by matrix-assisted laser desorption/ionization time-of-flight mass spectrometry of the effects of preanalytical variables on serum peptidome profiles following long-term sample storage 保存された臨床検体（血清）の質量分析による劣化の評価

土田 祥夫

千葉大学医学部附属病院マススペクトロメトリー検査診断学

2-3 臨床検査におけるヒト試料の品質確保と標準化の動向

宮地 勇人

東海大学医学部基盤診療学系臨床検査学

2-4 安価で高精度なBRCA1/2変異検出法による家族性乳がん・卵巣がん遺伝子診断

井ノ上 逸朗

国立遺伝学研究所 人類遺伝研究部門

14:30-15:15

教育講演

座長 小原 収（かずさDNA研究所 副所長/技術開発研究部長）

クリニカルシーケンスの最近のトピックス

西尾 和人

近畿大学医学部ゲノム生物学

16:00-16:30

特別講演 2

座長 野村 文夫（千葉大学医学部附属病院マススペクトロメトリー検査診断学寄付研究部門
千葉大学医学部附属病院遺伝子診療部）

ゲノム医療推進のために必要な施策とは

薬師寺 みちよ

参議院議員

16:30-18:30

シンポジウム3：クリニカルシーケンスの社会実装

座長 武藤 学（京都大学大学院腫瘍薬物治療学講座 / 京都大学病院がん薬物治療科）

土原 一哉（国立がん研究センター 先端医療開発センター）

3-1 森光 敬子

厚生労働省 医政局 研究開発振興課

3-2 先駆け申請から考える進行固形がんクリニカルシーケンスの医療実装

河野 隆志

国立がん研究センター 研究所 ゲノム生物学研究分野 先端医療開発センター ゲノムTR分野 分野長

3-3 武藤 学

京都大学大学院腫瘍薬物治療学講座 / 京都大学病院がん薬物治療科

3-4 池田 貞勝

東京医科歯科大学 医学部附属病院 中央診療施設等腫瘍センター

7月9日(日)

9:00-10:45

シンポジウム4：日本のバイオバンクのこれから

座長 森田 瑞樹（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科臨床バイオバンクネットワーク事業化研究講座）

4-1 今後の疾患バイオバンク機能の在り方 ～診療施設併設バイオバンクへの期待～

野田 浩絵

文部科学省 ライフサイエンス課 ゲノム研究企画調整官

4-2 AMEDゲノム医療研究支援から見るバイオバンクの在り方

田中 康博

日本医療研究開発機構 基盤研究事業部 バイオバンク課

4-3 ナショナルセンター・バイオバンクネットワーク(NCBN)の取り組みについて ～6NCバイオバンクネットワーク事業の現状と方向性～

池田 仁子

NCBN中央バイオバンク データベース・広報部門／国立国際医療研究センター臨床研究センター
データサイエンス部

4-4 荻島 創一

東北メディカル・メガバンク機構

11:00-12:45

シンポジウム5：バイオバンクの人材育成

座長 西原 広史（北海道がんセンター がんゲノム医療センター）

奥野 恭史（京都大学 大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 ビッグデータ医科学分野）

5-1 岡大バイオバンクが取り組む改善活動：品質の更なる向上に向けて

松原 岳大

岡山大学病院バイオバンク

5-2 臨床検査技師・病理技師がゲノム医療の道へ進むときは

柳田 絵美衣

北海道大学病院 がん遺伝子診断部

5-3 医療分野におけるバイオインフォマティクスの育成/確保

鎌田 真由美

京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻

5-4 情報科学の世界からみたゲノム医療

岡村 容伸

三菱スペース・ソフトウェア株式会社

12:45-13:00

次期大会長挨拶

武藤 学（京都大学大学院腫瘍薬物治療学講座 / 京都大学病院がん薬物治療科）

第3回クリニカルバイオバンク研究会シンポジウム バイオバンク関連施設ポスター展示 出展施設

1. 施設名(通称名称)	オーダーメイド医療の実現プログラム/バイオバンク・ジャパン(BBJ)
2. 発表者氏名	湯地 晃一郎
3. ポスタータイトル	バイオバンク・ジャパン (BBJ) のご紹介
4. 施設概要	バイオバンク・ジャパン(BBJ)は、個人の遺伝情報に基づく医療(オーダーメイド医療)の実現のために、2003年に構築されたゲノム医療の研究基盤です。51疾患、約26万人、約42万症例の生体試料、臨床情報の収集・解析・配布を実施しています。2015年からは、連携機関(日本臨床腫瘍研究グループ、日本小児がん研究グループ、国立病院機構)の試料を保管しています。 DNAバンクでは、4℃±2℃を維持する自動搬送装置搭載の保管庫に約200万本のチューブが収納可能です。血清・血漿保管庫では、-150℃を維持する液体窒素タンク58台内に約334万本のチューブが収納可能です。組織保管庫では、-150℃を維持する自動搬送装置搭載の液体窒素保管庫に約48万本のチューブが収納可能です。 情報では90万SNPデータに加え、臨床情報には5,837項目のクリーニング済み情報が含まれ、平均追跡率95%/平均追跡期間約10年に及ぶ生存情報も有します。
5. 検体の種類	血清、血漿、組織、その他 (DNA)
6. 検体の譲渡対象	国内公的研究機関、国内企業、その他団体 (日本国内に法人格を有する外資系日本法人研究機関)
7. 施設サイトURL	https://biobankjp.org
8. 問い合わせ先 (担当者窓口)	オーダーメイド医療実現化プロジェクト事務局 (担当: 小原・原) shiryo_h@ims.u-tokyo.ac.jp 電話 03-5449-5122

1. 施設名(通称名称)	ナショナルセンター・バイオバンクネットワーク (NCBN)
2. 発表者氏名	島貫 秀之
3. ポスタータイトル	ナショナルセンター・バイオバンクネットワーク (NCBN) の取り組みについてのご紹介
4. 施設概要	国立高度専門医療研究センター (ナショナルセンター: NC) は国民の健康に係る主要な疾患の病因解明と治療・予防法を開発することを使命とし、6つのNCが協力してバイオバンクネットワークを構築し「新たな医療の創造」に向けて取り組む事業です。
5. 検体の種類	全血、白血球 (細胞株樹立用を含む) 血清、血漿、唾液、脳脊髄液、尿、組織、FFPE、その他(DNA, RNA, 糞便等)
6. 検体の譲渡対象	国内公的研究機関、海外公的研究機関、国内企業、海外企業 その他団体 (研究施設)
7. 施設サイトURL	http://www.ncbiobank.org/
8. 問い合わせ先 (担当者窓口)	関 徳代 tseki@hosp.ncgm.go.jp 電話 03-3202-7181 (内線2854)

1. 施設名(通称名称)	国立循環器病研究センターバイオバンク (NCVCバイオバンク)
2. 発表者氏名	田沼 玲子、富田 努、高田 彰
3. ポスタータイトル	国立循環器病研究センターバイオバンクの取り組みについてのご紹介
4. 施設概要	多くの予定入院患者や、一部の緊急入院患者や外来患者を対象に（いずれも成人を対象）、NCVCバイオバンクへの協力を呼びかけ、同意を取得している。患者血液検体からは、血清、血漿、DNA、生細胞を凍結保管し、臨床情報に加えて同意取得時の主病名、併存病名の登録も行っている。
5. 検体の種類	DNA/血清/血漿/末梢血生細胞
6. 検体の譲渡対象	国内公的研究機関、海外公的研究機関、国内企業、海外企業 ※2017年7月時点で共同研究のみ対応
7. 施設サイトURL	http://www.ncvc.go.jp/biobank/
8. 問い合わせ先 (担当者窓口)	バイオバンク事前調整窓口 ncvc_bb_jizenchousei@ml.ncvc.go.jp

1. 施設名(通称名称)	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 JCRB生物資源バンク ヒト組織バンク
2. 発表者氏名	小阪 拓男、大西 礼、佐藤 元信、小原 有弘
3. ポスタータイトル	JCRB生物資源バンクヒト組織バンクにおける試料の収集と分譲
4. 施設概要	当ヒト組織バンクは、国内で最初に一般の研究機関が利用可能な日本人由来試料の分譲システムを確立した公的バンクである。 国内医療機関から厳正な倫理手続きを経て提供されたヒト組織（外科手術で摘出された余剰組織）、組織由来試料及び情報を匿名化（対応表を残さない方法）したのち、研究用として産学官の研究機関に分譲している。
5. 検体の種類	組織、その他（組織由来細胞等）
6. 検体の譲渡対象	国内公的研究機関、国内企業
7. 施設サイトURL	http://bioresouce.nibiohn.go.jp/human/
8. 問い合わせ先 (担当者窓口)	小阪 拓男 t-kosaka@nibiohn.go.jp 電話 072-480-1670

1. 施設名(通称名称)	京都大学医学部附属病院キャンサーバイオバンク
2. 発表者氏名	増田 史恵、古谷 由希、樋渡 恵、板倉 佳奈美、水口 真由己、芦田 圭奈美、佐々木 瑛里、金井 雅史、松本 繁巳、武藤 学
3. ポスタータイトル	京都大学医学部附属病院キャンサーバイオバンクの紹介 (仮題)
4. 施設概要	当院ではBiobank & Informatics for Cancer (BIC) projectを立ち上げ、そのインフラとしてキャンサーバイオバンクを2013年9月より開始した。当院で治療を受けるがん患者の生体試料を保管対象とし、診療時に追加採取を行っている。バイオバンク同意書となる「生体試料の保管と将来の研究利用に関する説明文書」によりバンクで収集した生体試料はゲノム解析を含むあらゆる臨床研究に利用可能となっている。
5. 検体の種類	全血DNA、血漿、内視鏡生検組織 (がん部、非がん部)、組織DNA、その他腹水
6. 検体の譲渡対象	これまでの実績は学内のみ。ただし外部機関への提供も共同研究契約を締結していれば可能
7. 施設サイトURL	http://www.cancer.kuhp.kyoto-u.ac.jp/cancerbiobank/
8. 問い合わせ先 (担当者窓口)	http://www.cancer.kuhp.kyoto-u.ac.jp/cancerbiobank/ 電話 075-751-3111 (内線 7644)

1. 施設名(通称名称)	岡山大学病院バイオバンク (岡大バイオバンク)
2. 発表者氏名	松原 岳大、小川 瑠里子、日比野 なつみ、花房 裕子、田中 朋子、金平 友貴子、高山 京子、古森 亜理、森田 瑞樹、富田 秀太、宗 淳一、豊岡 伸一
3. ポスタータイトル	岡山大学病院バイオバンク (岡大バイオバンク) の取り組み
4. 施設概要	岡山大学病院バイオバンク (岡大バイオバンク) は2015年4月に設立され、現在までに累計約4,200検体 (組織 約1,000検体、血清・血漿 約2,000検体、末梢血単核細胞 (PBMC) 約800検体、その他 約400検体) と付随する臨床情報を保管・管理しています。 研究現場からの多様かつ高品質な試料の要望に対応できるよう、診療施設併設型バイオバンクとしての利点を生かし、各種試料の処理・保管とともに、付随する臨床情報の管理を行っています。また個別の様々な要望にあわせた前向き検体採取も可能です。 大学・公的研究機関における基礎研究に限らず、民間企業の医薬品等の研究開発にも利用しやすいバイオバンクであることを心がけており、これまでに複数の民間企業や大学研究室で検体をご利用いただいています (提供実績はホームページで公開しています)。 また、本バイオバンクは解析施設を併設しており、様々な解析を学内外から受託しています。併せて、院内の臨床研究・治験支援機能 (ARO) と密接な連携を行っており、リバース・トランスレショナルリサーチ (rTR) の支援も可能としています。
5. 検体の種類	白血球 (細胞株樹立用を含む)、バフィーコート、血清、血漿、尿、組織、FFPE、その他
6. 検体の譲渡対象	国内公的研究機関、国内企業
7. 施設サイトURL	http://biobank.ccsv.okayama-u.ac.jp
8. 問い合わせ先 (担当者窓口)	岡山大学病院バイオバンク事務局 biobank@okayama-u.ac.jp 電話 086-235-6029

1. 施設名(通称名称)	北海道大学病院 臨床研究開発センター 生体試料管理室
2. 発表者氏名	加瀬谷 美幸
3. ポスタータイトル	北海道大学病院におけるバイオバンク
4. 施設概要	北海道大学病院バイオバンクは、診療施設併設型バイオバンクとして440㎡の面積、8台の超低温フリーザーを有している。高品質核酸抽出と良好な組織像が両立可能な次世代固定液の導入や、臨床研究に特化した院内オーダリングシステムと連動したバンキングシステム、次世代シークエンサー（NGS）による生体試料のゲノム解析の実施などの体制で運用を行っている。現在、院内18診療科が利用しており、多施設共同研究における検体管理にも対応している。
5. 検体の種類	全血、血球、血清、血漿、臍帯血 骨髄 PBMC、唾液、脳脊髄液、胸水、BAL液、尿、組織、FFPE、PFPE、喀痰、膿胞液
6. 検体の譲渡対象	国内公的研究機関、海外公的研究機関、国内企業、海外企業など。(共同研究による利用)
7. 施設サイトURL	http://crmic.huhp.hokudai.ac.jp
8. 問い合わせ先 (担当者窓口)	天野 虎次／加瀬谷 美幸 toraji@med.hokudai.ac.jp / kasegai@med.hokudai.ac.jp 電話 011-706-7933

1. 施設名(通称名称)	千葉大学
2. 発表者氏名	加野 将之、飯田 慶子、小林 宗平、鬼澤 歩、松下一之、松原 久裕
3. ポスタータイトル	千葉大学クリニカルバイオバンク
4. 施設概要	がん患者の生体試料 TRおよび臨床研究・臨床系学会関係事業の実績とそれに基づくデータベース構築・生体試料との連結
5. 検体の種類	血清、血漿、FFPE、凍結組織
6. 検体の譲渡対象	国内公的研究機関、国内企業
7. 施設サイトURL	http://www.academic-surgery.jp/biobank.html
8. 問い合わせ先 (担当者窓口)	加野 将之、飯田 慶子 mkano@chiba-u.jp 電話 043-226-2110

1. 施設名(通称名称)	佐賀大学医学部附属病院
2. 発表者氏名	佐藤 明美、中村 秀明、末岡 榮三朗
3. ポスタータイトル	佐賀大学医学部附属病院メディカルバイオバンクセンター
4. 施設概要	検体ストックは、入出庫を自動で行うロボット倉庫を設置しました。また電子カルテから検査データや投薬情報を一元的に抽出し表示するプログラムとバイオバンクを連結し、保存検体の搬出は電子カルテ上の臨床情報を見ながら自動で行う機能を持たせました。当院で独自に開発した、臨床情報連結型バイオバンクシステムです。
5. 検体の種類	血清/血漿/尿/組織/その他 (DNA/血漿DNA/細胞)
6. 検体の譲渡対象	現在は外部への譲渡は行っていません。
7. 施設サイトURL	http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/hp/medicalcare/mbbc/
8. 問い合わせ先 (担当者窓口)	佐藤 明美 biobank@ml.cc.saga-u.ac.jp 電話 0952-34-3455 (平日 9:00~17:00)

1. 施設名(通称名称)	福島県立医科大学 医療-産業トランスレーショナルリサーチセンター
2. 発表者氏名	高木 基樹
3. ポスタータイトル	「福島コレクション」
4. 施設概要	「福島コレクション」とは、一般的な「バイオバンク」ではなく、臨床検体を、①情報に変える(遺伝子発現解析、ゲノム解析、タンパク質解析等)、②加工して増やす(がん組織由来培養細胞、担がんマウス等)、③極微量サンプルの解析技術(DNAマイクロアレイ、タンパク質マイクロアレイ等)を開発する、ことで最大限に活用したコレクションである。「福島コレクション」を製薬企業、検査・診断薬企業、研究機関等へ提供している。
5. 検体の種類	臨床試料より抽出したDNA、RNA、タンパク質 臨床試料を解析したゲノムデータ、遺伝子発現解析データ がん組織より樹立した培養細胞、担がんマウス
6. 検体の譲渡対象	国内公的研究機関、海外公的研究機関、国内企業、海外企業
7. 施設サイトURL	http://www.fmu.ac.jp/home/trc/
8. 問い合わせ先 (担当者窓口)	高木 基樹 m-takagi@fmu.ac.jp 電話 024-581-5840

1. 施設名(通称名称)	つくばヒト組織バイオバンクセンター
2. 発表者氏名	竹内 朋代
3. ポスタータイトル	つくばヒト組織バイオバンクセンターの運営と将来構想
4. 施設概要	事業内容 患者より提供を受けた組織、血液、診療情報を保管し、研究・教育機関へ分譲を行う。「企業への分譲も行う」「共同研究契約の締結は必要としない」「成果物の帰属権は要求しない」ことを特徴としている。今年4月に開設された人間ドック(つくば予防医学研究センター) 受診者から提供を受けた血液についても分譲を予定している。
5. 検体の種類	組織、FFPE、血清
6. 検体の譲渡対象	国内公的研究機関、海外公的研究機関(日本の倫理指針が対応できる範囲)、国内企業、海外企業(日本の倫理指針が対応できる範囲)、国内教育機関
7. 施設サイトURL	http://www.hosp.tsukuba.ac.jp/outpatient/facility/biobank.html
8. 問い合わせ先(担当者窓口)	竹内 bank298@hosp.tsukuba.ac.jp 電話 029-853-3715

1. 施設名(通称名称)	金沢大学がん進展制御研究所 腫瘍制御
2. 発表者氏名	源 利成
3. ポスタータイトル	金沢大学がん進展制御研究所ヒト消化器がん組織バンク
4. 施設概要	がんを専攻する金沢大学の共同利用・共同研究拠点です。当研究所が運用するヒト消化器がん組織バンクは、共同研究と研究成果の共同発表(可及的に)を前提に各種の組織検体と情報を提供します。
5. 検体の種類	組織(同じ症例の非がん部とがん組織)、FFPE、その他(DNA, total RNA, cDNA)
6. 検体の譲渡対象	国内公的研究機関、海外公的研究機関
7. 施設サイトURL	http://ganken.cri.kanazawa-u.ac.jp/
8. 問い合わせ先(担当者窓口)	源 利成 / 事務: 浅香 敦子 minamoto@staff.kanazawa-u.ac.jp / mayamaya@adm.kanazawa-u.ac.jp 電話 076-265-2792 / 076-265-2798 (9時~16時)

1. 施設名(通称名称)	千葉県がんセンター・バイオバンク
2. 発表者氏名	巽 康年、筆宝 義隆、横井 左奈、下里 修、清宮 淳、滝口 伸浩、伊丹 真紀子、山口 武人、永瀬 浩喜
3. ポスタータイトル	千葉県がんセンター・バイオバンクの取り組みについて
4. 施設概要	千葉県がんセンター・バイオバンクは、1996年より運用を開始した。現在までに、凍結組織（腫瘍部および非腫瘍部）を約12,000件、計約30,000本登録保管している。血清に関しては、2010年よりバンキングを開始し、現在までに約22,000件登録保管している。施設は入室セキュリティ管理されており、試料はバーコード管理した上で温度管理された冷凍庫にて保管している。
5. 検体の種類	組織、血清、脳脊髄液
6. 検体の譲渡対象	国内公的研究機関、海外公的研究機関、国内企業への譲渡実績あり
7. 施設サイトURL	https://www.pref.chiba.lg.jp/gan/index.html
8. 問い合わせ先 (担当者窓口)	永瀬 浩喜 hnagase@chiba-cc.jp 電話 043-264-5431（内線8006）

1. 施設名(通称名称)	かずさDNA研究所
2. 発表者氏名	小原 収
3. ポスタータイトル	バイオバンクと連携した地域立脚型の臨床オミックス解析拠点整備
4. 施設概要	当研究所は、植物やヒトのDNAに刻まれた「生命の設計図」である遺伝情報を解読し、それに基づいて細胞の中でさまざまな働きをしている遺伝子についての基礎研究をこれまではメインに行って来ました。しかし、千葉県が整備された国内でも数少ない大規模な遺伝情報解読のための設備を医学研究に活用すべく、DNAだけでなく臨床的なオミックス解析を実施する解析拠点化を推し進め、千葉県内の医学研究機関、医療機関と連携して活動を進めています。
5. 検体の種類	該当せず
6. 検体の譲渡対象	該当せず
7. 施設サイトURL	http://www.kazusa.or.jp
8. 問い合わせ先 (担当者窓口)	小原 収 ohara@kazusa.or.jp 電話 0438-52-3913

謝 辞

本シンポジウムを開催するにあたり、下記の企業および団体から多大なご援助をいただきました。ここに心より感謝の意を表します。

協 賛

◆寄附

株式会社エスアールエル

◆ポスター展示

医薬基盤・健康・栄養研究所 ヒト組織バンク

岡山大学病院バイオバンク

公益財団法人かずさDNA研究所

金沢大学がん進展制御研究所

京都大学医学部附属病院がんセンターバイオバンク

国立循環器病研究センター

佐賀大学医学部附属病院 メディカルバイオバンクセンター

千葉県がんセンター

千葉大学クリニカルバイオバンク

筑波大学附属病院つくばヒト組織バイオバンクセンター

東京大学医科学研究所

ナショナルセンター・バイオバンクネットワーク

公立大学法人 福島県立医科大学

北海道大学病院 臨床研究開発センター

◆企業展示

アジレント・テクノロジー株式会社

アズワン株式会社

イルミナ株式会社

エフ・シー・アール・アンド バイオ株式会社

株式会社グミ

株式会社グライナー・ジャパン

倉敷紡績株式会社

サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社

株式会社セルート

大陽日酸株式会社

株式会社椿本チエイン

Tメディカルパッケージ株式会社

日本システム開発株式会社

株式会社パーキンエルマー・ジャパン

バイオテック株式会社

ハミルトン・カンパニー・ジャパン株式会社

ブルックス・ジャパン株式会社

マイサイエンス株式会社

ワケンビーテック株式会社

和光純薬工業株式会社

◆広告

アイ・エル・ジャパン株式会社

アボットジャパン株式会社

株式会社エイアンドティー

株式会社LSIメディエンス

株式会社グミ

株式会社サーモフィッシャーサイエンティフィック

株式会社テクノメディカ

日本ジェネティクス株式会社

日本電子株式会社

バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社

株式会社日立製作所 ヘルスケアビジネスユニット

富士レビオ株式会社

ベックマン・コールター株式会社

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

(50音順)

平成29年6月20日現在

第3回クリニカルバイオバンク研究会シンポジウム プログラム・抄録集

発 行 平成29年7月5日

編 集 千葉大学医学部附属病院 検査部・遺伝子診療部
〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1丁目8-1
TEL : 043-222-7171

印 刷 株式会社エー・イー企画
〒101-0003 東京都千代田一ツ橋2-4-4 岩波書店一ツ橋別館4F
TEL : 03-3230-2744(代表) FAX : 03-3230-2479



Made by JEOL

誰もが夢をふくらませることのできる、
そんな、豊かな未来に、科学で貢献すること。
それは、理科学機器のトップメーカーとして、
私たちが築き上げてきたジオルブランドの、
メインコンセプトです。

JEOL  **日本電子株式会社**

本社・昭島製作所

〒196-8558 東京都昭島市武蔵野3-1-2 TEL: (042) 543-1111(大代表) FAX: (042) 546-3353
www.jeol.co.jp ISO 9001・ISO 14001 認証取得

一本紛失した採血管を瞬時に探せますか？



TRIPSなら
すぐ見つけ
られます！



RFID検体情報統括管理システム

TRIPS (Technomedica Rfid Process control System)

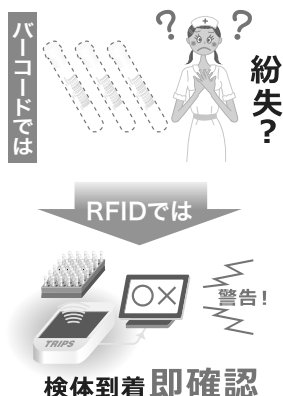
外来・病棟での一括確認を可能にしました。

検査室での検体到着確認、病棟での検体到着確認および採血後の検体搬出確認、尿検体自動提出確認、検体保管庫内での位置確認から検体廃棄まで、検体のトレーサビリティに至る幅広い展開を可能にします。

次世代検体管理 — 効率化と安全性を同時に実現！

安全性

一括読み取りで
瞬時に確認。
●不足が分かれば
すぐ病棟へ連絡！



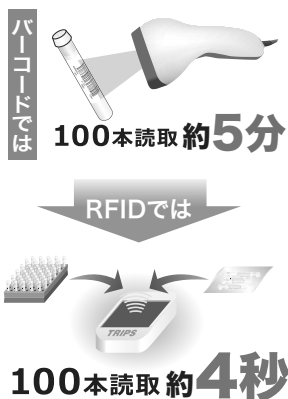
業務軽減

受取り確認の
引き継ぎ等の
業務が軽減。

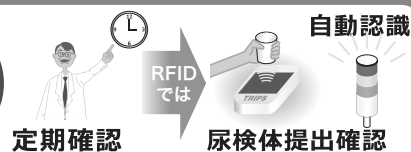


効率化

一括読み取りによる
検体確認時間の
大幅な短縮が可能。

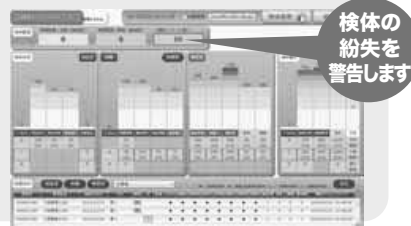


様々な分野で



検体監視モニター

- 検体の動きをリアルタイムに監視し到着遅れ検体を警告します。
- 検索し、各記録時間状況を表示します。



3H

High Speed
High Quality
High Efficiency



「3H」と「3S」で、ハイブリッドにさらなる価値を。

生化学と免疫、みまつの検査領域をハイブリッドで測定するコバス 8000に、免疫測定用モジュール「e 801」が登場します。独自の「3Hコンセプト」と従来の「3Sコンセプト」により、300テスト/時の処理能力と単位で9分*の迅速測定を可能に。これにより、生化学と免疫の同時検査も可能になりました。8000コアを備え、自在な組み合わせを実現するロシュのハイブリッドが、検査室に新たな価値をもたらし、より質の高い医療の提供に貢献します。

*多くの場合は10分、一部の検査は21分。

3S

Slim
Smart
Sustainable

生化学と免疫の統合型分析装置
「cobas® 8000 (702|801)」登場



高効率コバス 8000 製品販売開始番号: 11381X0201000002



ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-2-70
カスタマーソリューションセンター ☎0120-600-152 <http://www.roche-diagnostics.jp>

質量分析を取り入れた 微生物同定・感受性検査

- › マイクロスキャン WalkAway 96 Plus
- › マイクロスキャン WalkAway 40 Plus
- › MALDI バイオタイパー
- › LabPro-MBT システム



質量分析機器と自動機器の相互通信と LabPro 機能により、
臨床に有用な同定・感受性結果を報告します。

- MALDI バイオタイパーは、2,000 菌種以上の広範囲な菌名を 10 分以内に同定
- マイクロスキャン WalkAway Plus は、プロンプト法により、簡便で再現性良く、同定・感受性検査を実施
- MALDI バイオタイパーの検体割付・オーダー、同定結果と感受性結果の統合、さらに、最新の CLSI 準拠の判定基準と耐性菌検出口ジックにより、診断に有用な結果を報告



Move healthcare forward.

ベックマン・コールター株式会社

本社: 〒135-0063 東京都江東区有明3-5-7 TOC有明ウエストタワー

お客様専用 ☎0120-566-730 URL <http://www.beckmancoulter.co.jp>

全自動血液凝固分析装置

ACL TOP ファミリー 50 シリーズ

より信頼性の高いデータ報告と効率的な検査業務をサポートします。

ACLTOP®
Family 50 series

New

- ・測定項目毎に閾値設定可能なプレアナリティカル検体チェック
- ・臨床検査室認定向けサポートツール
- ・先進的な品質マネジメント



ACL TOP 350 CTS シーティーエス
届出番号:13B3X00222000020

ACL TOP 550 CTS シーティーエス
届出番号:13B3X00222000021

ACL TOP 750 CTS シーティーエス
届出番号:13B3X00222000019

Werfen
Diagnostic Solutions for Life

選任製造販売業者／製造販売業者
アイ・エル・ジャパン株式会社

〒108-0073 東京都港区三田一丁目3番30号 三田神田ビル
＜カスタマーサポートセンター＞ ☎0120-274-011
E-mail: info-japan@werfen.com / URL: werfen.com



免疫発光測定装置

ルミパルス® L2400



High throughput
高い処理能力

240 Test/h

Extensibility
拡張性

コンパクトデザイン
搬送接続

Usability
シンプル操作

いつでも、だれでも
簡単操作
簡単メンテナンス

Data Compatibility
データの互換性

ルミパルスシリーズ
豊富な試薬の
ラインナップ

免疫発光測定装置

ルミパルス® L2400



- ・240 テスト / 時間の検体測定を省スペースで実現。
- ・最大 24 項目の同時測定が可能。
- ・外部サンプリングにより、1 本搬送・5 本ラック搬送接続に対応可能。

免疫発光測定装置

ルミパルス® G1200



- ・最大 36 項目の試薬同時架設が可能。
- ・最大 24 項目の同時測定が可能。
- ・豊富な試薬項目、省スペース、簡便操作を実現。

免疫発光測定装置

ルミパルス® G600II



- ・データ処理部を本体一体型（タッチパネル）とし、卓上型にふさわしい省スペース化を実現。
- ・ルミパルスシリーズ上位機種とのデータ互換性を実現。
- ・測定頻度が少ない項目でも効率的に測定が可能。

※ 仕様および形状は、改良などのため予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。
※ 「ルミパルス」「LUMIPULSE」は富士レビオ株式会社の登録商標です。



製造販売元
富士レビオ株式会社
【問い合わせ先】 お客様コールセンター ☎0120-292-832

敗血症を見つめる新しいアプローチ

体外診断用医薬品

保 険 収 載

承認番号：22500AMX01344000

プレセプシンキット

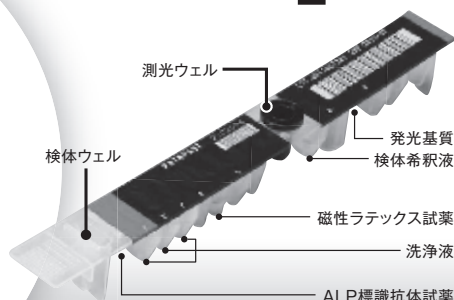
パスファースト

Presepsin

1 全血測定が可能

2 17分以内の
スピード処理

3 洗浄液、基質液、廃液ボトル不要
オールインワン
試薬カートリッジ



移動式免疫発光測定装置 パスファースト

PATHFAST®

届出番号：13B3X10041000021



製造販売元



株式会社LSIメディエンス

〒101-8517 東京都千代田区内神田1-13-4
お問い合わせ先 TEL:03-5994-2516 (平日9:00~17:45)



MOLECULAR

COMPANION DIAGNOSTICS

ALK融合遺伝子検出キット

Vysis® ALK Break Apart FISH プローブキット

HER-2遺伝子キット

パスビジョン® HER-2 DNA プローブキット

アボット ジャパン株式会社

〒108-6305 東京都港区三田3-5-27住友不動産三田ツインビル西館 TEL:03-4555-1100 (大代表) © Abbott Japan Co., Ltd., 2016

201607005

HITACHI
Inspire the Next



シンプルに使いやすく。

検体の到着確認から開栓・分注・子検体へのラベル貼付、
さらに外部搬送までをコンパクトに集約したオールインワンパッケージ。

検体前処理分注装置

LabFLEX 2600

 株式会社 日立製作所 www.hitachi.co.jp/healthcare

LabFLEX は、株式会社日立製作所の登録商標です。

Every Droplet tells a story...
...and ends in discovery.



第3世代高精度・高感度絶対定量デジタル PCR の決定版

QX200™ AutoDG™ Droplet Digital™ PCR システム

バイオ・ラッドの Droplet Digital PCR システムは、日本での販売開始後5年以上が経過し、現在では数多くのお客様にご好評をいただいております。また Cell や Nature などへの掲載実績も増加しており、細胞を評価するという点においても、細胞の品質チェック、スクリーニング、培地のコンタミチェック、CNV や変異検出など数多くのアプリケーションが使用され、認知度が急速に高まっています。

高精度、高感度定量

20,000 個の均一な微小区画（ドロップレット）を使用し、
0.01% オーダーでの絶対定量を実現

最高のスループット

1 回の実験で 96 サンプルの定量が可能

より簡便で安定な実験系

AutoDG を用いることにより、実験間の誤差を最小限に抑え、
安定したドロップレット作成が可能

多彩な検出色素

プローブ法 [FAM、HEX (VIC)] に加え、
インターカラーション法の EvaGreen 色素も検出可能

豊富な実績

Cell や Nature など 400 報以上掲載されております。

主なアプリケーション

- ウイルス定量
- 微量遺伝子定量
- Rare Mutation 検出
- NGS データのバリデーション
- 細胞・培地の評価
- CNV 解析



BIO-RAD

バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社

www.bio-rad.com

Z10776L 1606a

検査統合プラットフォーム

CLINILAN® Core

蓄積した「情報」を活きた「知識」に。

診療部門と検査部門をボーダーレスにするCLINILANの新しい未来。

Coreは、検査業務に負荷をかけない独立したデータベースです。
散在するデータを「統合管理」し、それを常時「安定稼働」させ、
必要な時に誰にでも「データ活用」できます。



臨床部門

CLINILAN
PV/PV pro

CLINILAN
Core

検査部門

CLINILAN
GL-3

バイタル
投薬
処置

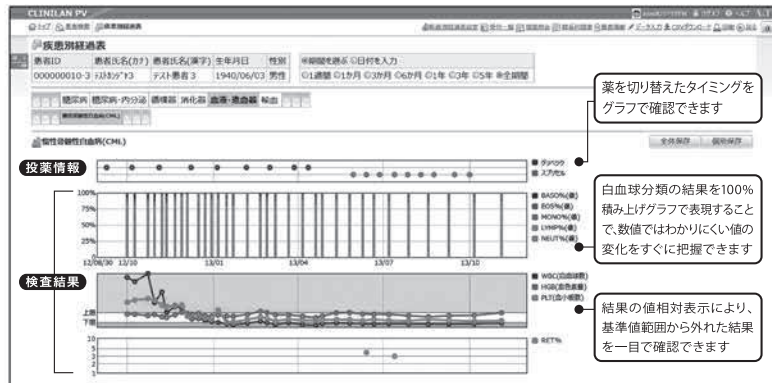
- 診療支援
- 検査室管理
- 品質保証

検査情報Web参照システム

CLINILAN® PV pro

投薬などの治療による
検査値の変化を即時に把握

- 長期間にわたる時系列表示に対応
- 各表示項目の時間軸をそろえ、患者の
状態変化を可視化
- 疾患別や用途に応じてグラフをセット化、
簡単表示



株式会社 エイアンドティー 〒221-0056 神奈川県横浜市神奈川区金港町2-6 横浜プラザビル ☎ 045(440)5810

<http://www.aandt.co.jp/>

The Solution Partner of Sample Management & Biobank

サンプルマネジメントと
バイオバンキングの
ソリューションパートナー



Automatic LN₂ Sample Storage Below -150°C

ASKION C-line®
work bench



- プログラムフリージング
- 超低温下でのサンプルハンドリング
- 超低温下の一時保存

ASKION C-line®
hermetic storage

- 密閉空間での保管と検索
- 半自動から全自動にアップグレード可能
- 多様なサンプルの同時保存に対応



HS200シリーズ
Sタイプ



HS200シリーズ
Mタイプ

Ziath

Cube Single-Rack
Scanner



Ziath
2D バーコードスキャナー /
ソフトウェア

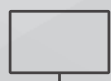
Ziath HandHeld



BS-Tracker

gumi Simple & Smart
Laboratory Management Style

BS-Tracker
サンプルマネジメントパッケージ



Software



Scanner



Seal

株式会社グミ
ライフサイエンス事業部

〒150-0011
東京都渋谷区東3-13-11
A-PLACE恵比寿 8F

Tel 03 6821 9391
Fax 03 6821 9395
Web www.gumi.co.jp/lifescience

お問い合わせ
lifescience@gumi.co.jp

サンプロソフィー

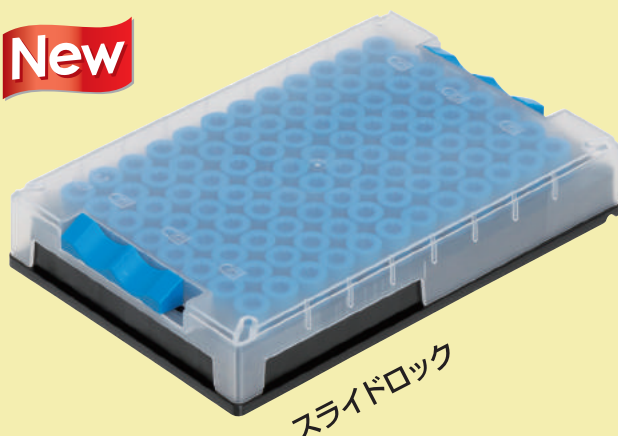
Samprosophy®

チューブ&ラックシステム

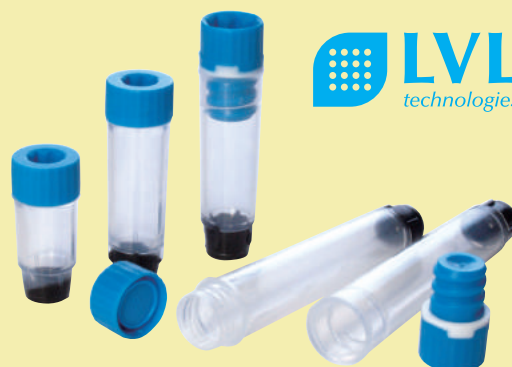


大量試料保存用 96 本・
二次元データマトリクスコード・チューブラックシステム

New



スライドロック



インナーキャップ/アウターキャップから選択可能



幅広いキャップ/デキャップとの互換性



キャップ単品はラック入りでもご提供

		SX 300 〈アウターキャップ〉	MX 500 〈アウターキャップ〉	LX 1000 〈アウターキャップ〉	MI 500 〈インナーキャップ〉	LI 1000 〈インナーキャップ〉
最大*ワーキング ボリューム	スクリューキャップ時	300μl	500μl	1,000μl	450μl	980μl
	プッシュキャップ時	250μl	400μl	900μl	540μl	1,070μl
使用可能温度	スクリューキャップ時	-196℃/VPLN2	-196℃/VPLN2	-196℃/VPLN2	-196℃/VPLN2	-196℃/VPLN2
	プッシュキャップ時	-80℃	-80℃	-80℃	-80℃	-80℃

*.最大利用可能量は温度と試料の特性によって異なります。試料によっては、氷点以下の温度で最大12%膨張することがあります。希望する保存量と代表的な試料でテストし、各チューブの最大保存量を判断することをお奨めします。

FastGene™ クライオチューブ & FastGene™

2D バーコードオプション対応

- ・自立型（チューブ内部は丸底仕上げ）
- ・チューブ高わずか 22.3mm
- ・推奨使用温度範囲：-196℃ ~ +121℃
- ・別売の 2D バーコード付インサートにより、サンプル融解不要でいつでもバーコード管理ができます。



● アウターキャップ

Cat.No.	容量	包装単位
FG-CRY-05S	0.5mL	500
FG-CRY-10S	1.0mL	500
FG-CRY-20S	2.0mL	500

● インナーキャップ

Cat.No.	容量	包装単位
FG-CRY-In-05S	0.5mL	500
FG-CRY-In-10S	1.0mL	500
FG-CRY-In-20S	2.0mL	500

● 2Dバーコードインサート（未滅菌）

Cat.No.	包装単位
FG-CRY-2D	FG-CRY専用 500



日本ジェネティクス株式会社

<http://www.n-genetics.com> ✉ info@genetics-n.co.jp

本社 〒112-0004 東京都文京区後楽1-4-14 後楽森ビル18階
Tel. 03 (3813) 0961 Fax. 03 (3813) 0962

西日本営業所 〒600-8491 京都府京都市下京区室町通四条南入鶏鉾町493番地 ムーンバットビル6階
Tel. 075 (353) 8855 Fax. 075 (353) 8858